

## (2) 「自動車環境管理計画書制度」の見直しについて

東京都環境局  
環境改善部自動車環境課  
令和8年3月30日

### 課題

#### ・報告書の作成に対する負担感が先行

- ・ユーザーレビューにおいては、報告に係る手間に対する不満が多く見受けられる一方、肯定的な意見はほとんど見られず、負担感が先行している。
- ・定量的な効果測定のため、個別の車両情報や、給油量、走行距離といった、最も手間のかかる項目については、削減は不可能であり、抜本的な解決は困難→**手間（コスト）に見合ったリターンの必要性**

### 対応

#### ・計画書・報告書の作成・提出に係る負担感の軽減

- ・事業者サイトの改修によるQOSの向上
- ・提出様式の見直し（エラーチェック機能や転記補助ツールの追加など）

#### ・モチベーションを付与することで事業者の自主的取組を促進

- ・ステークホルダーから評価される仕組みを構築
  - 削減状況が優秀な事業者を掲示(公表)する機能の追加、検索機能の充実化等
- ・取組事例の効果的な共有
- ・事業者に対する更なる削減手法の提案（自動車環境管理指針の見直し）
- ・各事業者に対し、自主的削減目標の目安を個別に提示

公表サイトの改修  
による対応を検討

## 自動車環境管理計画書制度の見直し

### 【対応案1】 計画書及び実績報告書作成の負担感軽減のための見直し

- 計画書及び実績報告書作成の**事業者負担軽減**に向けて様式を見直し
  - ・記述式からチェック式に変更し、記載量を削減
  - ・類似の制度（グリーン経営認証制度）との共通化（取組項目名、内容等）を検討
    - ➡グリーン経営認証と本制度との報告内容及び様式を比較し共通化を図り、負担感を軽減

# 自動車環境管理計画書制度の見直し

## 【対応案1】 計画書及び実績報告書作成の負担感軽減のための見直し

### ●グリーン経営認証制度（類似制度）との比較

#### 【①類似点】

項目	内容（類似点、相違点など）
①制度目的	・事業者の自主的な環境配慮行動の促進により、自動車使用に伴う環境負荷低減 （ただし、グリーン経営認証は任意の認証制度に対し、本制度は条例に基づく義務制度）
②対象事業者	・運送事業者（トラック・バス・タクシー等）は両制度の対象 （本制度の約4割は貨物・旅客運送事業者）
③自動車使用に関する取組内容	・低公害車（本制度は低公害・低燃費車）導入 ・エコドライブ（燃費管理、教育等）等の取組
④報告頻度	・毎年度、環境に関する取組状況の報告が必要

類似の制度ごとに  
毎年度異なる書類の提出が必要

# 自動車環境管理計画書制度の見直し

## 【対応案1】 計画書及び実績報告書作成の負担感軽減のための見直し

### ●グリーン経営認証制度（類似制度）との比較

#### 【②相違点】

項目	グリーン経営認証制度 (公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)	自動車環境管理計画書制度 (東京都)
⑤制度の特徴	・任意の <b>認証制度</b> （事業者の自主的参加）	・東京都の条例による <b>義務制度</b>
⑥報告者	・ <b>事業所</b>	・ <b>事業者</b> （都内に複数事業所を有する場合は、それらを合算して提出）
⑦報告内容	・燃費管理状況（走行距離、燃料使用量）は、 <b>車両区分（最大積載量）</b> ごと ・エコドライブ等の取組状況は、 <b>チェックリストへのチェック方式</b>	・燃費管理状況は、 <b>車両1台</b> ごと ・エコドライブ等の取組状況は、 <b>チェックリストへのチェック方式と記述記載</b>
⑧報告書類	・ <b>グリーン経営推進マニュアルに基づく</b> 申請書及びチェックリスト	・ <b>東京都独自様式</b> による計画書及び実績報告書 ※本制度においては、提出後の内容把握や集計業務等のため、変更が難しい報告様式もあり

制度ごとに必要とする報告内容が異なるため、共通化困難な事項はあるが、可能な事項については、共通化を検討

# 自動車環境管理計画書制度の見直し

## 【対応案1】 計画書及び実績報告書作成の負担感軽減のための見直し

### <計画書制度の報告様式>

エコドライブや使用合理化について、記述式での記入が必要

#### 報告事項【基本対策】

内	容
	空ぶかし、急発進・急加速運転防止及びアイドリング・ストップ等によりエコドライブの実施を徹底するほか、燃費の記録管理をする事でエコドライブの実施の確認をした。また運行委託業者に対してもエコドライブ実施について指示した。
	エコタイヤ（グリーン購入ガイドで規定している転がり抵抗係数が7.7以下のタイヤ）を導入する事で燃費の向上を図った。
	日々の運行前点検・定期点検の確実な実施を徹底し、車両の性能維持に努めた。また運転日報を作成し燃料消費量などチェックし、適正な燃費の維持に努めた。

第2号様式 その1

#### 自動車環境管理実績報告書

1 自動車使用台数		計画策定時	2024年度実績
使用する自動車の台数			
2 自動車から発生する温室効果ガス及び排出ガス量のサンプル			
CO <sub>2</sub> 排出量	2024年度実績排出量		
	目標(計画期間平均)		
NO <sub>x</sub> 排出量	2024年度実績排出量(kg)		119.2
	目標(計画期間最終年度排出量)(kg)		106.9
PM排出量	2024年度実績排出量(kg)		3.0
	目標(計画期間最終年度排出量)(kg)		2.0

3 特定低公害・低燃費車等の導入の取組に関する報告事項【基本対策】	
内	容
	自動車メーカーの低公害・低燃費車の供給状況をみながら、導入率の更なる向上を目指した。
	乗用車の更新にあたっては、原則、燃料電池自動車、電気自動車、プラグインハイブリッド自動車を選択し、使用用途に見合う燃料電池自動車、電気自動車、プラグインハイブリッド自動車がない車種については、市販されるまでハイブリッド自動車を選択した。また緊急車両、工事用などの特種車両、悪路で使用する車両などは、切り替え可能なガソリン車を選択した。

4 エコドライブの取組に関する報告事項【基本対策】					
報告事項	内 容				
適正運転の実施	空ぶかし、急発進・急加速運転防止及びアイドリング・ストップ等によりエコドライブの実施を徹底するほか、燃費の記録管理をする事でエコドライブの実施の確認をした。また運行委託業者に対してもエコドライブ実施について指示した。				
エコドライブに関する対策	<table border="1"> <tr> <td>機器の導入</td> <td>アイドリングストップ装置搭載車の導入、エコタイヤを導入する事で燃費の向上を図った。</td> </tr> <tr> <td>車両の維持管理</td> <td>日々の運行前点検・定期点検の確実な実施を徹底し、車両の性能維持に努めた。また運転日報を作成し燃料消費量などチェックし、適正な燃費の維持に努めた。</td> </tr> </table>	機器の導入	アイドリングストップ装置搭載車の導入、エコタイヤを導入する事で燃費の向上を図った。	車両の維持管理	日々の運行前点検・定期点検の確実な実施を徹底し、車両の性能維持に努めた。また運転日報を作成し燃料消費量などチェックし、適正な燃費の維持に努めた。
機器の導入	アイドリングストップ装置搭載車の導入、エコタイヤを導入する事で燃費の向上を図った。				
車両の維持管理	日々の運行前点検・定期点検の確実な実施を徹底し、車両の性能維持に努めた。また運転日報を作成し燃料消費量などチェックし、適正な燃費の維持に努めた。				

このシートは公表用サイトにて公表されます

○実績報告の内容は計画事項を元に記載をお願いします。

○プルダウンによる選択機能とコメントによる内容の例示を追加しました。記載方法が不明な方は参考とし、**具体的にどの程度まで取り組んでいるか**を記載してください。(これまで通り、自由記載も可能です。)

#### 記載内容の例

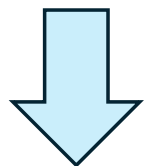
- 適正運転の実施
  - 燃費の記録管理、燃費に関する定量的目標の設定、エコドライブマニュアルの作成・配布、エコドライブの教育・訓練の実施、エコドライブの実施(空ぶかし、急発進・急加速運転等の削減、冷蔵冷凍車の場合は荷室温度の適正化等)、駐車時のアイドリングストップの徹底、優良ドライバーの表彰等
- 機器の導入
  - エコドライブ装置の装着・装置搭載車の導入、デジタル式運行記録計やテレマテックス等の導入・活用、エコタイヤ(省燃費タイヤ)の導入、アイドリングストップ装置搭載車の導入、エアヒーター・蓄熱マット・蓄冷式クーラー又はエアディフレクタの導入、外部電源による冷蔵等貨物室の空調管理を可能とする装置の導入等
- 車両の維持管理
  - 日常点検・整備マニュアルの作成・配布、日常点検・整備に関する教育・訓練の実施、日々の始業点検・定期点検の完全実施、エアリーナーの定期的な点検、運転日報の作成等

# 自動車環境管理計画書制度の見直し

## 【対応案1】 計画書及び実績報告書作成の負担感軽減のための見直し

### <計画書制度の報告様式>

エコドライブや使用合理化について、記述式に加え、別様式で達成状況を数字でも記入



取組状況の報告については、記述式を廃止し、基本、チェック式（達成状況の数字入力含む）に統一し、記述は特記のみに変更することを検討

➡記述入力の負担を軽減

8 エコドライブ及び自動車使用合理化の手法		
(1) エコドライブの手法		
計画事項	取組状況	内 容
適正運転の実施	3	燃費の記録管理 燃費に関する定量的目標の設定 エコドライブマニュアルの作成・配布 エコドライブに関する教育・訓練の実施
	3	エコドライブの実施(空ぶかし、急発進・急加速運転等の削減、冷蔵冷凍車の場合は荷室温度の適正化等)
	3	駐車時時のアイドリング・ストップの徹底
機器の導入		優良ドライバーの表彰等 エコドライブ装置搭載車の導入 デジタル式運行記録計やテレマティクス等の導入・活用 エコタイヤ(省燃費タイヤ)の導入 アイドリング・ストップ装置搭載車の導入 エア・ヒーター、蓄熱マット、蓄冷式クーラー又はエア・ディフレクタの導入 外部電源による冷蔵等貨物室の空調管理を可能とする装置の導入
		日常点検・整備マニュアルの作成・配布
		日常点検・整備に関する教育・訓練の実施
車両の維持管理	3	日々の始業時点検・定期点検の完全実施 エアクリーナーの定期的な点検
	3	運転日報の作成
その他		

・業務毎に集計した数値を公表予定です(事業者名は公表されません)。  
・自由記入に限りは含みません。  
・※事業活動が極めて少ない事業者については非公開とします。

【計画項目の有無】 記載基準 ※「機器の導入」以外  
「3」 : 既に計画内容を実施している場合  
「2」 : 計画の内容に取り組んでいる場合  
「1」 : 計画しているが着手していない場合  
「空欄」 : 計画等が無い場合

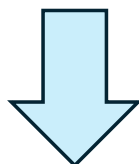
【取組状況】の  
「3」 : 100%  
「2」 : 50%  
「1」 : 50%  
「空欄」 : 未着手

【計画項目の有無】 記載基準 ※「機器の導入」以外  
「3」 : 既に計画内容を実施している場合  
「2」 : 計画の内容に取り組んでいる場合  
「1」 : 計画しているが着手していない場合  
「空欄」 : 計画等が無い場合

# 自動車環境管理計画書制度の見直し

## 【対応案●】 計画書及び実績報告書作成の負担感軽減のための見直し

エコドライブの実施等の状況について、  
チェック方式で回答



計画書制度において、取組事項等について共通化を図れるものは、表現や文言など統一感を出すように検討

➡事業者側の混乱を防ぎ、入力負担感（ストレス）を軽減

### <グリーン経営認証制度の申請様式>

2. エコドライブの実施				認証基準	表
Yes	No	該当なし	レベル		
<b>2-1【燃費に関する定量的な目標の設定等】</b>					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	[1]	走行距離および燃料の使用状況について、会社として把握している	表1
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	[2]	エコドライブについて、会社として燃費に関して定量的な目標を設定している	表2
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	[2]	燃費に関する定量的な目標を達成するため、エコドライブを効果的に進めるための計画を策定している	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	[3]	会社として、エコドライブの取組み状況や取組み結果（燃費）に基づいて、取組み状況が改善するよう、取組みの見直しを行う仕組みを設けている	
<b>2-2【エコドライブのための実施体制】</b>					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	[1]	エコドライブを推進するための責任者を定めている	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	[1]	ドライバーに対して、エコドライブに関する基礎的な知識について、5項目以上の教育・指導を行っている	表3
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	[2]	エコドライブ講習会や社内の実技講習会に、5割以上のドライバーが参加している	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	[3]	ドライバー別に、燃費管理の結果をもとに、燃費が向上するよう指導を行っている	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	[3]	ドライバー別に、燃費管理の結果をもとに、燃費の優れたドライバーへの表彰等を行っている	
<b>2-3【アイドリングストップの励行】</b>					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	[1]	アイドリングストップの励行を重点的に取組むよう周知している	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	[2]	アイドリングストップに関する具体的な実施項目を定めている	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	[3]	アイドリングストップに関する取組み結果のデータを整理し、取組み状況が改善するよう、取組みの見直しを行う仕組みを設けている	
<b>2-4【推進手段等の整備】</b>					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	[1]	エコドライブを実施するための手引き（省エネ運転マニュアル等）をドライバーに配布している	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	[2]	エコドライブを推進するための装置を導入するための計画を作り、計画に沿って実施している	表4
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	[3]	エコドライブを推進するための装置を導入した結果を確認し、エコドライブの実施に役立っている	

★審査申請する場合は、認証基準（レベル欄が網掛けになっている項目）がすべて「Yes」でなければなりません。

# 自動車環境管理計画書制度の見直し

## 【対応案2】 計画書及び実績報告書作成の入力画面改修

- 入力作業における負担感の軽減に向けた入力画面の改修

### 画面改修のポイント

- ・ユーザー目線に立ったナビゲート
- ・サイト内に必要な情報を集約

現状

提出物一覧			
事業者ID	022019991	事業者名	テスト
所在地	東京都新宿区西新宿2-8-1テスト		
環境管理者名	東京 太郎	所属	総務部
(担当者名)	東京 花子	(所属)	テスト
お知らせ用Eメール名称	個人用	パスワード再発行用Eメール名称	個人用
(連絡先)	0300000000 (67-595)		
計画書	各提出物のダウンロード(受信)	提出用実績報告書ダウンロード(受信)	実績報告書のアップロード
2022年度			
2023年度			
実績報告書	2024年度		
2025年度			
2026年度			

メッセージ ファイル管理

事業者宛メッセージ

メッセージ

添付ファイル: ORG\_KEIKAKU2018\_ver.4.5.6(2021年台).xlsx

・手続きの導線整理が不十分  
→ファイルの送信ミス、問い合わせが多発

改修後  
イメージ

手順内容に応じた分かりやすい  
ナビゲートボタンを新設

計画書の提出・変更

実績報告書の提出

所在地、メールアドレス等の変更

チャットやお知らせは引き続き  
トップ画面に

チャット欄・お知らせ欄

問い合わせ先

チャットボットによる  
ナビゲーションも実施

チャットボット

ご質問にチャットボットが  
お答えします。

# 自動車環境管理計画書制度の見直し

## 【対応案3】 計画書及び実績報告書作成の支援ツールの作成の検討

- 車両ごとの登録番号、型式、走行距離、燃料使用量等の報告様式について、作成支援ツール導入を検討

燃費管理データの報告様式への移行作業を支援するツール

作成支援ツール

< 事業者の燃費管理データ >

### 燃費管理表

日付	走行距離	給油量	単価	燃費

< 計画書制度の報告様式 >

4 車両ごとの現況

整理番号	増減区分	営業所番号	ナンバープレート			初度登録年月	自動車種別	型式	車両総重量(kg)	燃料種類	後付け装置		年間走行距離(km)	年間燃料給油量(L, Nm3, kWh, kg)	排出係数			燃費等	排出量			燃費状況	車両区分	その他	特定低公害車	非ガソリン車
			NOx PM 低減	PM 低減	NOx						PM	CO <sub>2</sub>			NOx (kg)	PM (kg)	CO <sub>2</sub> (t)									
1	減車	1	練馬	302	サ	47		1795	ガソリン			5985	775	0.013	0.000	2.32	7.72	0.1	0.0	1.8						
2	減車	1	練馬	800	せ	14		50W	2335	ガソリン		3269	293	0.025	0.000	2.32	11.16	0.1	0.0	0.7						
3		1	練馬	800	せ	35		16K	3225	ガソリン		417	130	0.070	0.000	2.32	3.21	0.0	0.0	0.3						
4		1	多摩	800	そ	45		16K	3225	ガソリン		378	164	0.070	0.000	2.32	2.30	0.0	0.0	0.4						
5		1	練馬	800	せ	43		16K	3275	ガソリン		575	149	0.070	0.000	2.32	3.86	0.0	0.0	0.3						
6	増車	1	練馬	302	ぬ	36		54	2195	プラグインハイブリッド		588	78	0.006	0.000	2.32	7.54	0.0	0.0	0.2			○	○		
7	増車	1	練馬	302	ぬ	8			2495	プラグインハイブリッド		601	80	0.013	0.000	2.32	7.51	0.0	0.0	0.2						
8		2	練馬	330	と	67		2	1805	プラグインハイブリッド		10664	424	0.013	0.000	2.32	25.15	0.1	0.0	1.0			○	○		
9		2	練馬	330	て	67		2	1805	プラグインハイブリッド		18895	637	0.013	0.000	2.32	29.66	0.2	0.0	1.5			○	○		
10		2	練馬	331	ち	28		0W	2615	ハイブリッド(ガソリン)		12364	1017	0.006	0.000	2.32	12.16	0.1	0.0	2.4			○	○		
11		2	練馬	330	に	67		2	1805	プラグインハイブリッド		18374	690	0.006	0.000	2.32	26.63	0.1	0.0	1.6			○	○		
12		2	練馬	330	な	53		0	2225	燃料電池(圧縮水素)		14487	121	0.000	0.000	0.00	119.73	0.0	0.0	0.0			○	○		
13		2	練馬	330	ち	53		0	2225	燃料電池(圧縮水素)		21139	176	0.000	0.000	0.00	120.11	0.0	0.0	0.0			○	○		
14	増車	3	多摩	344	ろ	5			1795	電気		1552	241	0.000	0.000	0.00	6.44	0.0	0.0	0.0			○	○		
15		2	練馬	330	て	53		0	2225	燃料電池(圧縮水素)		11897	99	0.000	0.000	0.00	120.17	0.0	0.0	0.0			○	○		
15		2	練馬	330	そ	53		0	2225	燃料電池(圧縮水素)		14299	119	0.000	0.000	0.00	120.16	0.0	0.0	0.0			○	○		
16		2	練馬	530	ぬ	17			2155	ハイブリッド(ガソリン)		2067	163	0.006	0.000	2.32	12.68	0.0	0.0	0.4			○	○		

サンプル

# 自動車環境管理計画書制度の見直し

## 【対応案4】 公表サイトにおける事業者検索機能 (進んで取組を実践している事業者が評価される仕組みづくり)

- 公表サイトにおいて、進んで取組を実践している特定事業者を抽出できるように検索機能を改修

### 改修のポイント

- ・サイトにアクセスするだけで、ステークホルダーにとって有意義な情報を得ることができる
- ・多様なニーズに応じた検索ができる

・現在は計画書及び報告書のみ  
の公表  
・検索項目は事業者名、所在地、業種、保有台数及び計画書提出年度のみ

・検索項目は事業者名、所在地、業種、保有台数及び計画書提出年度のみ

追加

削減状況が優秀な事業者の公表イメージ

東京都環境局  
自動車環境管理計画書制度  
計画書および実績報告書の公表  
音声読み上げ  
最終更新日：2025.03.14

検索

事業者名	<input type="text"/>
所在地 (市区町村)	未選択
業種	未選択
使用台数	<input type="text"/> 台 ~ <input type="text"/> 台
計画書提出年度	2022年度 ~ 2026年度

**PickUp!!**  
CO<sub>2</sub>削減量が優秀な事業者

事業者 A 1,200 t-CO <sub>2</sub>	事業者 B 950 t-CO <sub>2</sub>	事業者 C 800 t-CO <sub>2</sub>
----------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

もっと見る

充実化

<検索項目の追加> (想定)

- ・ZEVの導入台数
- ・取組に係るキーワード
- ・CO<sub>2</sub>等の削減状況
- ・ISOやグリーン経営認証等の取得事業者

### 自動車環境管理指針の目的

- ・特定事業者が、自動車もたらす環境への負荷を低減するために取り組む措置等の内容を定める。
- ・特定低公害・低燃費車の導入のほか**日常的に取り組むエコドライブや使用方法の改善等を促す自動車の使用の合理化**について明示

### 内容（抜粋）

#### 8 エコドライブの取組

- ・ 二酸化炭素、粒子状物質及び窒素酸化物の排出削減
- ・ 計画的な燃料使用量の抑制
- ・ 自動車走行距離及び燃料使用量の定量的な把握

※具体的手法は別表にて記載

（例）エコドライブに関する教育・訓練の実施、アイドリング・ストップ装置搭載車の導入、共同輸配送の促進（配送等業務の共同化） など

#### 9 自動車の使用の合理化の取組

- ・ 業種及び業態に応じた、二酸化炭素、粒子状物質及び窒素酸化物の排出削減
- ・ 計画的な自動車走行距離及び燃料使用量を抑制

## 社会環境の変化を踏まえてエコドライブ手法・自動車使用合理化の手法をアップデート

### 文献や自動車メーカー等へのヒアリングにより、最近の具体的な取組事例や効果的な手法を収集

【内容（例）】

- ・情報化・DXの進展（動態管理システム、プラットフォームによるアプリの活用等）
- ・輸送機器等の新技術の普及状況（自動運転等）
- ・物流の2024年問題（労働時間規制）によるドライバー不足や輸送力の低下、物流コスト高騰
- ・働き方の変化（テレワーク、オンライン会議の普及等）による自動車使用への影響

東京都自動車環境管理指針別表の内容（現行）

【エコドライブの手法】

計画事項	主な内容
適正運転の実施	燃費の記録管理、燃費に関する定量的目標の設定
	エコドライブマニュアルの作成・配布
	エコドライブに関する教育・訓練の実施
	エコドライブの実施、アイドリング・ストップの徹底
	優良ドライバーの表彰
機器の導入	エコドライブ装置の装着や装置搭載車の導入
	デジタル式運行記録計、テレマティクス等の活用
	エコタイヤ（省燃費タイヤ）の導入
	アイドリング・ストップ装置搭載車の導入
	キー抜きロープの導入
	エア・ヒーター、蓄熱マット、蓄冷式クーラー、エア・ディフレクタの導入
	外部電源による冷蔵等貨物室の空調管理を可能とする装置の導入
車両の維持管理	日常点検・整備マニュアルの作成・配布
	日常点検・整備に関する教育・訓練の実施
	日々の始業時点検・定期点検の完全実施
	エアクリーナーの定期的な点検
	運転日報の作成

【自動車使用合理化の手法】

計画事項	主な内容
車両の有効利用の促進	共同輸配送の促進（配送等業務の共同化）
	輸送能力の効率的な活用（車両の大型化、輸送口の平準化）
	帰り荷の確保（空車の削減）、時間指定配送の弾力化
	小口貨物の配送（宅配便等）における再配達への削減
	積載効率が低い土曜日・日曜日の車両使用の削減
自営転換	自家用貨物自動車による輸送から営業用貨物自動車による輸送への転換
モーダルシフトの推進	鉄道輸送、運搬用自転車・二輪車、海運等の活用
公共交通機関の利用の促進	鉄道、バス等の公共交通機関の利用の促進
	自転車シェアリングの利用促進、自転車・徒歩による移動の推奨
	マイカー通勤の抑制、カーシェアリングの利用促進
	通勤用巡回バスの整備
情報化の推進	事業用自動車の自宅持ち帰りの抑制
	アプリなどの活用、配車システムの導入・拡大
	VICS（道路交通情報通信システム）搭載カーナビゲーションシステム等による渋滞回避
物流施設の高度化、物流拠点の整備等	駐車スペース、接車バース等の予約システムの活用
	物流拠点への集約による輸送の効率化
環境マネジメントシステム等	荷受け・仕分け業務の効率化のための物流拠点の整備等
	ISO14001認証の取得、東京都貨物輸送評価制度の評価を取得、グリーン・エコプロジェクトへの参加

# 自動車環境管理指針の見直し

## 自動車使用合理化の手法をアップデート

自動車使用合理化における取組メニューについて、最新の動向や技術をもとに実効性の高い取組等を追加

見直しに当たっての視点	計画事項（分類）	取組内容
【車両の使用の効率化】 宅配便の再配達による環境負荷の低減	車両の有効活用の促進（小口貨物の配送（宅配便等）における再配達の削減）	・ライフスタイルに合わせた配達場所（置き配、オープン型宅配ボックス、コンビニ等での受取）指定サービスの実施
【物流の効率化】 発荷主・着荷主事業者として、物流事業者と連携・協同した取組み	荷待ち・荷役時間の削減	・予約システムの導入、パレットやかご台車等を活用した荷役時間の削減、パレット等の資機材の規格の標準化、出荷前準備の徹底
	多頻度小口配送の改善	・納品頻度の見直し、共同配送の推進、緊急出荷や時間指定の削減（物流事業者の配送計画への協力）
【新たな技術の活用】 運行管理、動態管理、自動運転等システム導入	情報化の推進	・車両動態管理システム導入による、走行ルート最適化・積載率の向上、危険運転検知による事故防止、自動日報作成による事務作業負担の軽減 ・A I 配送による配送ルート最適化
【輸送・移動手段の変化】 ラストワンマイルの電動化等	モーダルシフトの推進	・ラストワンマイル配送の電動化（E Vバイク、小型E V、自動走行モビリティ等の活用）
【その他】 Z E Vへの転換	車両の有効活用の促進（Z E Vの積極的な使用）	・環境性の優れたZ E V（燃料電池車、電気自動車及びプラグインハイブリッド車）の積極的な導入及び使用